

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

10月14日に予定されていたトライトーンのコサートは、中止となりました。

■自由とは何か

一般的に辞書では、強制・拘束・妨害・束縛などを受けないで、自分の意のままに振る舞うこととあります。つまり、自身への行動制限を受けないで、行動出来る状態です。しかし、思うに果たしてそれで良い答えなのか。

自由の反対は

では単純に、自由の反対は「不自由」です。しかしそういう表現は使われてません。では不自由とは何かと考えて見ますと、「思想・行動の不自由」です。これが一般的に上記で云われている範囲です。しかし、これだけではありません。それは「障害者の不自由（知的・精神的・肉体的）」です。

思想・行動の不自由

何故、自由を論ずる時、思想・行動の自由のみを取り上げるのでしょうか。それは過去の歴史で、万人が経験し、語り継がれるほどの苦しみや苦痛があったからです。しかし、障害者の不自由は、万人に該当するものではないからとしか説明出来ませんが、同様に苦しみや苦痛の源泉であることは間違いありません。

思想・行動の不自由の背景

思想・行動の不自由な状態は、強制・拘束・妨害・束縛などが行われれば、当然のように思想・行動の不自由が発生します。そしてそれは「する側とされる側」の発生でもあります。誰がそんなことをするかというと、その殆どは為政者（特に独裁者）や時の政府から発せられます。何故か。それはトップダウン的統制のためです。いわば「言うことを聞け」です。そして、そこには必ず反する場合の厳しい罰則が準備されていますので、従うしかない状態でもあります。

どんな時発せられるか

簡単に言えば、戦争状態・政情混乱時・独裁体制堅持などが上げられ、思想・行動を抑制し、意のままに国民をコントロール状態にして、同じ方向を向かせるためです。皆が自由に出来ると今度は、それを抑制することが大変だからです。

近代の日本では

近代の日本でそれを論ずるならば、やはり近いところ（とは云っても約80年前）では。太平洋戦争です。国民一丸となって「鬼畜米英」「徴兵」「学徒動員」など様々な行動が強いられた。それが敗戦となり、アメリカ的自由及び民主化が一举に到来することとなる。

現代定着しつつある自由

歴史的に苦痛からの開放であった自由の獲得は、現在の日本では別の方向に向いている。つまり行動の自由が、自由意思で何でも出来る環境とするならば、「行動の自由選択」に重心が移っている。ではこの行動選択とは何か。生活で不自由が少なくなった日本人は、何でも「面倒臭い」で片付ける習性が。

行動選択の自由

通常の自由の概念は、「自由に何でも出来る」という「やる」行為に関しての自由度の獲得である。ところが現在の日本で蔓延しているのは行動の自由選択、つまり、「するか・しないか」と云う行動選択なのである。やらないという自由意思、面倒臭い、勝手が働く、「やらない自由」を獲得した。

顕著な行動選択

やらない自由はやりたくない自由でもある。選挙は行かない（行く人半分）恋愛・結婚しない（半分）、やらない（意志）は徐々にやれなくなる（能力低下）、こうなると無気力・無感動・無関心に向かう。そして面白くなくなり、人生の味覚障害状態に陥る。人生にはキャリアを積まない出来ないこともあるし、年齢を重ねると今まで出来ていたことが出来なくなる。これ本当の話だよ。

「同窓会だより」は、八幡中学校ホームページトップの「特色ある活動」から入るとスマホやパソコンからでも見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。「同窓会だより」は毎月発行。